

(臨床研究に関する公開情報)

岡山医療センターでは、下記の臨床研究を実施しております。この研究の計画、研究の方法についてお知りになりたい場合、この研究に検体やカルテ情報を利用することをご了解できない場合など、お問い合わせがありましたら、以下の「問い合わせ先」へご照会ください。なお、この研究に参加している他の方の個人情報や、研究の知的財産等は、お答えできない内容もありますのでご了承ください。

[研究課題名]

数理生物学を用いて解析した日本人正常発育胎児と 18 トリソミー胎児の小脳発育の評価

[研究責任者]

産婦人科、多田克彦

[研究の背景]

超音波検査による胎児の臓器の発育や形態の評価は、様々な疾患の出生前診断に大きな貢献をしてきました。胎児小脳の発育に関しても多数の報告を認め、小脳の発育不全が重症の染色体異常である 18 トリソミーの出生前診断に有用であることが知られていますが、妊娠期間を通した小脳の発育を生物学的観点から評価したものはありません。

生物の臓器発育を表す成長曲線の多くは、数理生物学の中心的役割を果たしてきた微分方程式によって導き出すことができます。この手法を用いた、正常に発育した胎児と 18 トリソミー胎児の小脳発育の比較は生物学的な意味合いを持つものです。数理生物学的手法の浸透が十分とは言えない医学研究分野において、数理生物学の応用の可能性を示すことは、医学研究の発展に貢献できると我々は考えています。

[研究の目的]

この研究の主な目的は、妊娠期間を通した胎児の小脳横径と小脳半球前後径の発育を数理生物学的な手法を用いて評価することです。さらに同じ手法を用いて解析した 18 トリソミー胎児の小脳発育を正常発育胎児と比較し、出生前診断における有用性を評価します。

[研究の方法]

●対象となる患者さん

- 1) 正常発育胎児：西暦 2016 年 11 月 1 日から 2017 年 9 月 31 日の間に、当院の産婦人科外来で妊婦健診を受けた単胎妊娠の方。
- 2) 18 トリソミー胎児：西暦 2005 年 1 月 1 日から 2020 年 12 月 31 日の間に、お子様が当院で 18 トリソミーと診断され分娩となった方。

●研究期間

西暦 2021 年 4 月 1 日から西暦 2022 年 3 月 31 日。

●利用する検体、カルテ情報

検体：利用する検体はありません。

カルテ情報：超音波検査を実施した妊娠週数、超音波検査にて測定した以下の胎児計測値；児頭大横径、児頭前後径、推定体重、胎児小脳横径、胎児小脳半球前後径

●検体や情報の管理

情報は、当院で収集し匿名化した上でファイルに保存します。この情報は、数学的な解析のため Medical Data Labo にメールで送付します。

[研究組織]

この研究は、当院のみで実施されます。

[個人情報の取扱い]

情報には個人情報が含まれますが、利用する場合には、お名前、住所など、個人を直ちに判別できるような情報は削除します。また、研究成果は学会や学術雑誌で発表されますが、その際も個人を直ちに判別できるような情報は利用しません。情報は、当院の研究責任者である多田克彦、および解析機関の責任者である宮木康成が責任をもって適切に管理いたします。

[問い合わせ先]

国立病院機構岡山医療センター

産婦人科 多田克彦

電話 086-294-9911

FAX 086-294-9255